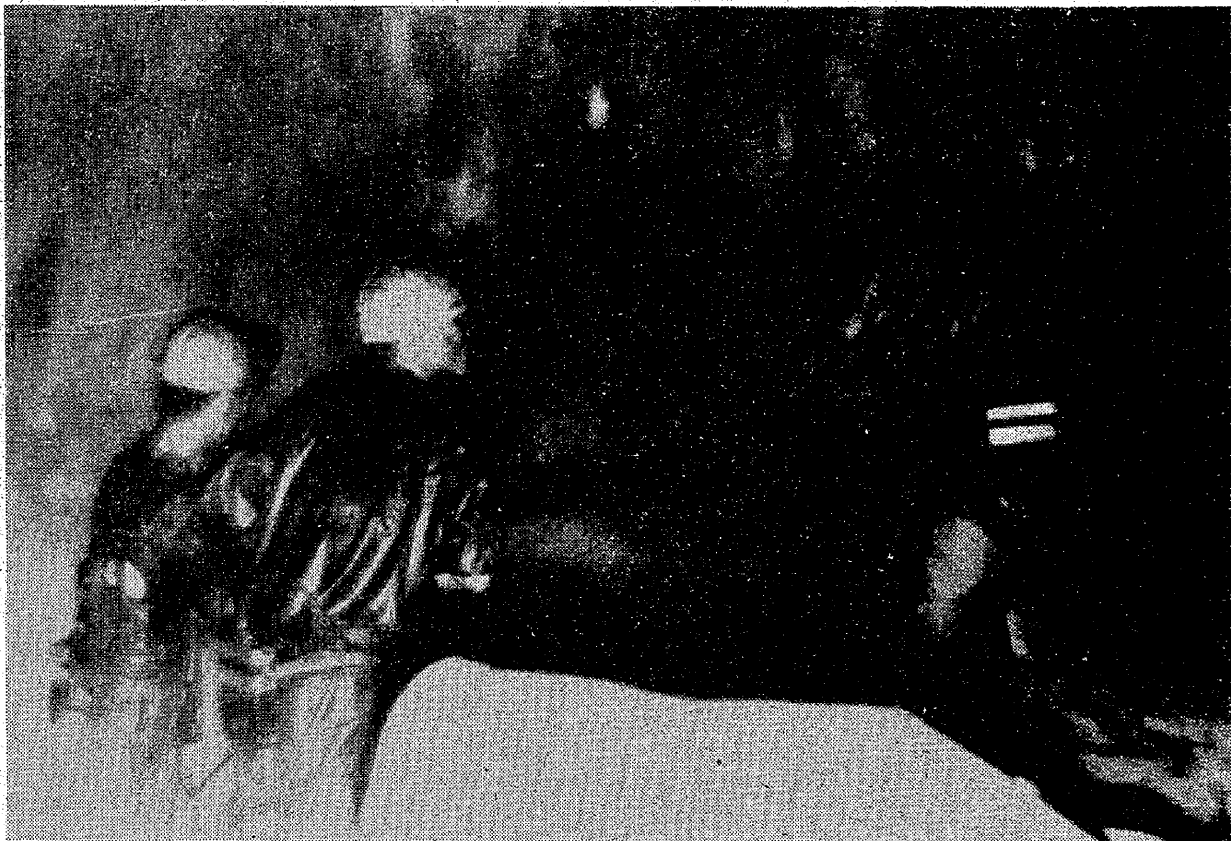




生活支える大事な期手

仁義もバカにならぬくらし

期末闘争に職場新聞
ほんしよの所論

こんなはずで
はなかったが

ポナスの要求額と闘争日程がればよいというものではない」と説明されたとき、私たちが希望しと述べている。

かさむ一方の
生活費

世の中には「つきあい」というものがある。一般的にはこれを「仁義」ともいっている。

三万七千円である。來年定年を迎える勤続年数三十八年の男で、その生活の疲弊を、明らかにすべきであらうと思ふ。

そういう、現実の生活実態であるにもかかわらず、炭労は「一八一年上期、および下期期末手当闘争」で多い。電灯・水道、水道は下水・道普及で水洗費用が加わっている方針（案）で、「現実われわれ

機、爆撃の炎の中を逃げまわった経験はある。

太平洋戦争前は教科書の統制により、戦争への道を歩み続けてきたことは事実である。子供達だけに、戦争への道を歩み始めようとして、教科書の反動化を、われわれは阻止しなければならないと思う。

今、教科書の統制により、再び戦争への道を歩み始めようとして、教科書の反動化を、われわれは阻止しなければならないと思う。

戦場に送らぬために

子供達を、再び

職場二十分会（三川）町佳郎

教科書反動化阻止集会に参加して

去る七月六日、大牟田労働福祉会館での、教科書反動化阻止大牟田地区集会に参加した。

大ホールはおもに教職員の人達が出席されていたようだったが、他の単産の人達も仕事帰りの疲れにもかかわらず多数参加されていて、満員であった。

現在、政府・自民党、財界の三つともえの力で、教科書反動化を

おしすすめている。

この日教科書問題についての講

演があつたが、その要旨は、一つひとつの具体例を示しつつ、教科

しかし、生活というものほどどんなに切り詰めても、切り詰められないものがあるのだ。それが生活というものである、と思う。

そういう炭鉱労働者の生活からでてくる要求額をこそ、会社につつつけるべきである。そうすると春闘の、五日間にわたったストライキを高く評価したように、自らの生活に根づいた要求ならば、かなり困難な諸問題が横たわっていようと、その困難を乗り越切る力量はあるはずだ。

×

要求額は、炭鉱労働者の要求をかなり下まわった。それでも、それで闘つて取った以上、労働組合としては、労働者の避けることのない生活を支えるための一律給を大幅に増すこと。せめて、そういう対策と配慮が必要であらうと思う。

×

相場二十四・二十五分
会(本所)の新聞「ほん
しょ」(NO・45号、七
月二十一日発行)から。

ところが今回の四十五万円とい

及

朝日が災害原因追及 保安のためにも必読を

三川鉾の落盤災害（坑内電気員 新聞やテレビも大きく伝えたため）の吉田哲郎さんら六人が死亡は一般に広く知られ、たびたび大災

首切りをハネ返す

小豆島バス労組の闘い

四國の小豆島バスの労働組合のねばり強い合理化反対闘争については、本紙でもすでにかなり詳細に伝えしたが、このほど香川地方労働委員会のあつせんを受け入れ、小豆島バス労働組合は延べ十六日半(三百七十二時間)に及ぶストをもった闘いを中止、妥結した。

その結果同地域の新聞も「島の悩みやつと解消。生活の足がもどつた」と、地域住民のよろこびを伝えていた。組合側の勝利は当然だった。

右労組の活動家「今口さんから職場二十六分会の池畑重信さんに寄せられた、同労組のこんどの勝利を伝える便りに述べられていた。」

「このたび小豆島バスの闘争も戦術として、五月六月にかけストを中止。組合は八項目の合理化をのみましたが、一人の仲間の手切りも許さず、またタクシー部門を守ることで、勝利することができました。これからも、ガンバリたいと思います」

よく闘った小豆島バスの労働者たち。

このとき朝日新聞は、七月十六日発行の「夕刊」の三ページを、紙面の三分の二近くも割いて同災害の原因を、熱い筆致で究明、注目をさせた。幾多の事実を示しての追及が目をはきつける。こんな災害を、このうえくり返ささせぬために、必読の記事だ。

[illegible]